第四回全国大会に結集しよう

友愛
発行所
友愛青年同志会
東京都文京区音羽町7の10
電話 大塚(94)2801
編集兼発行人 額尾行正
定価18円10円

入会申込は直接本部までハガキで一報下さい
東京都文京区音羽七ノ一〇
友愛青年同志会

第四回全国大会

過去の成果をいかそう

遠隔地の代表参加がめだつ

昭和三十二年度の本会の運動を決定する第四回全国大会は既報の通り来る五月四日・五日の両日東京・神田一ツ橋、如水会館において開催されるが、本大会提出議案もすでに別稿の通り決まり各地の代表者も続々決まりつつある。

大会要項にもあるように本会が過去四年に渡って、わが国青年運動のうえにはたしてきた役割は決して小さなものでなく、本大会を契機として、改革と飛躍することが期待され、大会への結集はそのスタートとして大きく評価しなければならない。

本大会には昨年以上に全国各地より代表者が集まることが予想されていたが、大会準備委員会事務局に規在迄の連絡状況を聞くと、特に九州・四国等の遠隔地や都会地をはなれたいわゆる僻地からの代表参加がめざち、会員の交流が、過去の大会以上に進むのではないかといっている。

この一事をとってみてもわかるように本会の組織が、幾多の困難を克服して着実に全国に伸びていることがわかり誠に心強い限りである。

代表の顔ぶれも多彩で、農・漁民あり、商人あり、また労務者・会社員あり等、これら各々異なった事情にある会員が一つの運動方針及び事業計画を討議決定することは、相当努力をはらわなければならず、それだけに、参加代表者の建設的な意見と熱意が望まれるところである。

本格的事業の一つである友愛山荘建設運動も本大会を期して開始されようとしている時でもある。大会参加の代表者は勿論全会員は大会への意志を積極的に表明しなければならず、大会ではこれらの意志を統一し、今後の広範な運動展開に方全を期すよう新らたな運動方針を打ち出さねばならない。

論説

われわれの周囲をみよう

（一）

第四回全国大会も近ずき、本会も何かとあわただしい動きをみせている。明るい未来を夢みるわれわれにとってこのあわただしさも非常に楽しいものに感じ大いに活潑な動きをしているのであるが、われわれの周囲には未来のないあわただしさが、人々を追いたてていやしないだろうか。

一たび世界に目を転じれば、かつてのジュネーブ精神はいつのまにか氷結し雪とけの水も止ったかの感さえある。ポーランドにはじまった東欧諸国のソ連に対する動きはハンガリーにおいてその頂点に達し、幾多の無辜の民衆の血が流され、他方スエズ運河国有化問題に端を発した中近東の動乱はいまだにくすぶる続け、いつ爆発するかもしれない危険な状態にある。

このように世界は再び緊張の方向に逆行するきざしがみえ、このことを反映し米・英・ソの大国は軍縮を口に唱えながら原水爆実験をしばしばおこない結果的には軍拡に拍車をかけているのである。われわれは憂慮しながらも国際的緊張追惑と〝死の灰〟の恐怖に常にさらされているわけで、何ともいいようのない雰囲気に落入っていることが感ぜられる。

一方国内的にはどうかといえば、神武景気も一千億減税も貧乏ひしがれた多くの国民にはただ空虚な響きをもって聞こえるだけで、真の繁栄を待つ人がいかに多いかを見逃がすことはできない。最近の統計によれば生産量も戦後最高であり、国民の平均所得も戦前迄に越えている。しかし厚生白書は高額、所得者と低額所、得者の差の大きいことをみとめ、要保護者の増大を訴えているのに、社会保障関係費にくすぶる続け、いつ爆発するかもしれない危険な状態にある。

一方国内的にはどうかといえば、神武景気も一千億減税も貧乏ひしがれた多くの国民にはただ空虚な響きをもって聞こえるだけで、真の繁栄を待つ人がいかに多いかを見逃がすことはできない。最近の統計によれば生産量も戦後最高であり、国民の平均所得も戦前迄に越えている。しかし厚生白書は高額、所得者と低額所、得者の差の大きいことをみとめ、要保護者の増大を訴えているのに、社会保障関係費にくすぶる続け、いつ爆発するかもしれない危険な状態にある。

（二）

しかしわれわれの周囲が不安な状態だけでないこともわすれてはならない。先の国際的動乱に示された善意の人々の良心は国連を通じて動かし得たのである。いまや大国といえども国際世論の前には、多少なりとも屈せざるを得ないことが証明された。原水爆の問題についても、実験禁止にまで至らせないといえば、英国のマクミラン首相をして実験制限の懸問を語らせる結果となり、労働党議員は進んで延期或いは中止の提唱をしている。また北欧諸国の原子科学者の実験禁止及び原子力の平和利用の提案、「西独原子科学者のあらゆる原子兵器の放棄」宣言、ロンドンにおこなわれている国連軍縮小委員会での米ソ両代表の最近の発言等原水爆禁止問題はわが国だけにとどまらず国際的世論として盛り上りつゝある。

原水爆に対するわれわれの反対が一部政治勢力の扇動によるものでもなく、ノイローゼでもなく国民全体の悲願であり、特定の国のみを対象とした反対運動でないことも多くの人々に理解されてきたことは事実で、反対運動の成果を拡げてゆくうえに大いに勇気づけられるのである。

また日ソ国交回復とわが国の国際連合加盟等、多年の念願であった国際社会への復帰も実現し、平和外交推進のうえに明るい見通しができてきた。国内的にも充分とはいえないまでも、話し合いのうちに解決を見い出そうとする気運がまず国会から起ってきたことは喜ぶべき現象で、このような気運をすべての面に盛り上げてゆく手腕りとなろう。以上のように不安と希望が交錯している現状をよく見極めることはわれわれの運動展開の上に重要なことで、大会での討議も現実に立って進めてゆかなければならない。しかしわれわれは青年であり、常に未来に目を向け現実の矛盾とが青春に戦をいどむ心がまえを忘れてはならない。

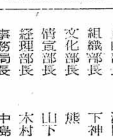
現実と未来について、またその間の運動の進め方について活潑な討議を期待してやまない。

大会前

九州三番目の支部（長崎）結成

大会前の合言葉で頑張る

古館　支部長



中島　事務局長

全国大会前に支部結成をの合言葉のもとに活発な結成準備運動を進めていた長崎地区はさる三月二十九日午後七時より長崎町村会館会議室（長崎市袋町）に全会員を集まり、長崎支部結成大会を開催ここに正式支部として本格的な活動を展開することになった。結成大会は古館準備委員長より友愛思想約、支部役員等を決定結成大会を終った。

支部役員

支部長	古館　仁義
会計	清水　昭夫
会計監査	小田巻喜男
監事	宮久　弘道
総務渉長	末田　重広
企画渉長	澤田　満保
組織渉長	下神　功
文化渉長	旗　正昭
情宣渉長	山下　光二
経理渉長	木村　今一
事務局長	中島　輝男

なお組織部長の経過報告及び友愛山荘建設運動の現況とその必要性について説明引続き支部選約、支部役員等を決定結成大会を終った。

本格的な運動については五月の全国大会後具体的に決定するが

①青少年の不良化防止

②山荘建設地区奪行委員会の設置及びその運動

③各地青年団との交流

④各会員二名づつの会員獲得

あって中島事務局長の経過報告及び友愛山荘建設運動の現況とその必要性について説明引続き支部選約、支部役員等を決定結成大会を終った。

本格的な運動については五月の全国大会後具体的に決定するが

①青少年の不良化防止

②山荘建設地区奪行委員会の設置及びその運動

③各地青年団との交流

④各会員二名づつの会員獲得

山荘建設候補地（関東地方）

写真　上　奥日光（栃木県）
中　妙義山（群馬県）
下　金谷（千葉県）

第四回全国大会

開会は午前九時半

―大会日程―

五月三日　×　×　×

資格審査委員会（午後六時三十分・於駿河台ホテル別館）

大会運営委員会（午後七時三十分・於駿河台ホテル別館）

五月四日

開会式（午前九時三十分・於如水会館スターホール）

本会議（午前十一時三十分・於如水会館スターホール）

分科委員会（午後一時・於如水会館集会室・会議室）

夕食懇親会（午後六時・於駿河台ホテル別館）

五月五日

分科委員会（四日と同じ）

役員選挙委員会（午後零時三十分・於如水会館会議室）

本会議（午後一時三十分・於如水会館スターホール）

閉会式（午後五時・於如水会館スターホール）

なお大会日程終了後宿舎（駿河台ホテル別館）において座談会・映画会、合唱練習を開催する。

× × ×

第四回全国大会

本部提出議案

第一号議案
昭和三十二年度運動方針及び事業計画案

第二号議案
昭和三十二年度予算案

第三号議案
昭和三十二年度組織活動方針案

第四号議案
会則一部改正に関する件

第五号議案
友愛山荘建設運動に関する件

第六号議案
社会福祉運動推進に関する件

第七号議案
原水爆実験禁止決議案

第八号議案
新役員選出に関する件

第九号議案
大会宣言に関する件

副会長制実施

川崎秀二氏推戴

本大会に会則一部改正の議案が出されているが、これはかねが副会長制の設置をのぞんでいたところ、この川崎秀二氏（元厚生大臣）の快諾を得たので、本年度より会則の一部を改正、役員の項に副会長を加入することにし、正式に川崎秀二氏を副会長として推戴することにした。

なお川崎氏は年来〝友愛山荘建設計画に参画していたさいており、今後の会運営についても積々相談にのっていたさいている。

東京でのモデル・ケース

結成に慎重な態度

連東支墨

東京都区内の組織化については再三話し合いがおこなわれながら、本格的動きをみるまでに至っていなかったところ、昨年来墨東地区（墨田・江東・江戸川・足立の各区）の有志が集まり、第四回全国大会に結成に向って活発な動きをしていたが、この程、応の支部結成構想がまとまったので、去る四月八日本部より渡辺事務局長・奥田組織部長が出席、第一回支部結成準備委員会を開いた。

同準備委員会では今後の方針として早急に墨東支部連合会を結成、逐次各区ごとに支部を結成していくための各区の準備委員が中心となり活発に会員獲得にのり出すことにした。

今回の墨東支連の結成は東京都における支部結成のモデル・ケースとなるので、本部としても本会結成当初のつつを踏まないよう慎重な態度でのぞみ、準備委員会との連絡を密にすると同時に、同地区会員に組織方針の徹底をかっていく。

なお墨東支連結成準備委員長は五十嵐省悟君（墨田区隅田町一ノ三三四）で準備委員には大西厳治君（現幹事）満生雄美子さん（前婦人対策部長）等が入っている。

現在おそくも四月中旬に支連結成を目標にしており、事務所を左記に設けることになった。

墨田区江東橋三ノ九
耕糸会館（二階）

直言

▽原水爆の実験によって古代の怪物がよみがえり或は人間が小さくなってゆくのを、興味本位に映画はとりあげているが、よく考えると空恐ろしい気がしてくる。現実に原水爆の実験はしばしばおこなわれており、その脅威も科学的に発表されて、すでに被爆者の白血病による死亡も多く、そのほか奇形児の誕生、南太平洋諸島住民の奇病等を聞くにつけ、ゴジラやラドンが ひょっとするとあられくるのではないかとの錯覚に落ち入ることさえある。

▽春雨がしとしとと降るさまは誠に情緒のあるもので、月形半平太でなくても「春雨じゃぬれてゆこう」という気分になるが、近頃はそうもいっていられない。ストロチウム90がどうの、カント何万トンがどうの、ガンが始りもうらめしいかぎりである。人間の因果ってこうにつきるといわざるをえない。

▽しかしこんなことをいってばかりもいられない。われわれは現実の地球上に生存しているのである。空想無画ならいざしらず、地球上からは逃げ出せないのであるからどうしても原水爆実験は止めさせなければならない。

▽原水爆実験禁止をいうはやすやすおこなわれないのは、いうは進まず先にいいだがたいことしとおっていることでもわかることで、イギリスに遅れた拙予特使の苦労がいまさらながら思いやられる。だがいわなければならないこと、これもまた出られなければならない。

▽最近の抗議船団のクリスマス島近海派遣については多くの異論もあり、われわれも派遣方法についていささか無謀であると思っているが、国際浮論かん起のためにイギリス以外に米・ソなども特使を派遣すべきであると思う。

▽第四回全国大会でも原水爆実験禁止について決議案を提出することになっているが、われわれの真の気持をぶちまけた決議にしたいものである。

昭和三十二年度運動方針及び事業計画

われわれの周囲

ジュネーブの雪解けに始まった新しい国際平和への時代は、昨年中近東と、ポーランドハンガリアに相継いで起こった動乱によって、再び国際緊張の方に逆行するきざしを見せた。そして東ヨーロッパにおけるこの一つの諸事件は、昨年、月ソ連の二十回党大会において急転した「非スターリン化」の結果として、ソ連の衛星国政策の実態を明確に示し、一方スエズ問題の推移は、植民地主義と帝国主義の時代が終えんを告げつゝあることを実証した。

衛星国に対する従属化の強要から生みだされるものは、労働者自体をそゝむ数万の市民の流血の悲劇以外の何物でもなく、そしてまた英仏によるスエズ地区への突入行使は、より大きな動乱の発火点を提供しつゝあったことをわれわれは深く考える必要がある。それと共に、アジア、アフリカにおける新しい民族独立の動きもまた決して見のがすべきではない。かくてわれわれは新しい世界は、どこまでも世界各民族の独立、平等の関係においてこそ、はじめて、強固な平和関係をうちたてることができることを確信するものである。

わが国は昨年超加盟国の仲間入りをして国際平和の舞台に足を踏みこんだ。

わが国は、国際社会の一員として、国際平和に貢献し得る努力を強力するに足った。ここにおいて、わが国は、アジアの一国として、アジア、アフリカ諸国と協調を保ちつつ、現在の世界の大きな変革の時代、平和関係樹立に対する水遠の平和関係樹立に寄与すべきであると考える。

一方国内情勢においては、二大政党対立の第一年目を迎え、わが国民主政治確立の基礎が除々に固まりつゝあるが、しかし依然労政党と社会主義政党との間には協調

運動方針

政党の基礎に新しい相異と共に日来の国民にとらわれた感情的もつれが存在し、国家百年の大計のもとにわが国の前途を託するに充分な体勢が整っているとは言い難い。そこで、われわれは保守の脱皮、革新の現実化という今日緊急の命題の下に、新しい政治的、経済的、社会的に画期的な変化を国民ひとりひとりの努力によって国内に招来することを期待するものである。

われわれの使命

このような国際情勢、国内情勢のもとに、われわれ青年の進むべき道は、まず一個の人間として自己の人格の陶冶に努めると共に、民主的で平和な社会の建設に向つて、お互いの力を結集するところにその出路点を求めなければならない。そしてカレルギ伯の提唱する新しい「人間関係」を若者の間にうたえて、友愛社会実現の理想に向って邁進しなければならない。

このようなわれわれ青年が個人としての責任にめざめると共に、外には進んで社会改革の為に挺身することを意味するのである。かくて友愛青年同志会は友愛主義理想のもとに、これら青年の使命達成の中核体として、その組織の拡大充実を計ることによって、さらに広範な実践活動を展開するために次のような運動方針を掲げて、その完遂を期するものである。

運動の基本方針

一、組織の拡充強化

友愛思想の徹底

会員数以来四ヵ年を経過し、組織拡大五ヵ年計画達成の結果として全国百数十ヵ所に支部及地区を持つに至り来組織員は逐に消滅し、まさに全国的青年組織として画期的な体勢を整えるに至った。しかし支部・地区の数においては強大な勢力を誇っていても、実際の支部活動、会活動においては未だ充分とは言えない点が多々存在する。

われわれは、この点を深く反省し、内に指導組織を充実して会員に対する友愛思想の徹底を計ると共に、会友と会員運動の強化を通じて次の組織の拡大充実を計らなければならない。

二、社会及び文化活動の推進

われわれは、内には、相互の人格を尊重し、友愛主義に徹すると共に、外には進んで社会福祉、社会改革のために実践活動を強化しなければならない。そのため、社会福祉活動を推進すると共に、われわれ究極の目標たる社会福祉国家の建設に向って、社会保障制度に対する研究を進め、会員は勿論更に広く一般の人々に対してその理解普及に努めなければならない。

三、政治学習の強化

われわれは、われわれの生活はすべて現実の政治に直結していることに思いをたし、政治に対する研究をすすめ、その学習成果をわが国の民主政治確立の基礎としてゆくよう努力しなければならない。なお政治問題に対する感度表明は常に日々上に結実的におこなわれなければならない。

四、友愛山荘建設運動の推進

友愛山荘社会保障事業計画

一、組織の強化

組織の拡充強化は、会活動の基本であることを会員は常に認識していなければならない。現在の社会において組織なくしてはいかなる事業も効果をあげることが出来ないといっても過言ではなく、特に青年には組織こそ唯一の武器である。

われわれは新たな決意のもと組織作りに邁進しよう。

（一）全国組織の確立

本会の組織目標は全国単一組織の確立である。本年度は組織拡大五ヵ年計画の最終の年でもあり全国組織強化の年である。

（二）指導組織の強化と講習会の開催

組織の強化は底辺からの確立である。

こうした諸問題を解決するためには、本会の組織目標は全国単一組織の確立である。本年度は組織拡大五ヵ年計画の最終の年でもあり全国組織強化の年である。

（三）友愛思想の徹底と情報宣伝の強化

（四）会財政の確立

組織強化の基本は会財政の確立にあることを会員たるものは常に念頭に置かなければならない。

❶会費の完納

支部長・地区責任者は会員の会費納入状況を常に調べ、無理のない方法で（分割や適当な時期）完納する。会費の徴収を行う。

❷賛助会員の積極的獲得

❸支部財政に対する補助

本年度は支部並びに地区に対する援助のうち五円を補助する。なお特別の場合は別に考慮する。

❹各種資料の有償配布

昨年より広範な地方を対象に交換を行う。

交換条件　支部・地区相互を原則とする。

支部・地区二名を原則とする。

人員　十月中旬約一週間

期間　潜在費は相互に負担・旅費は本部負担

経費

❺共同作業の推進

❻地方青年の交換

昨年より広範な地方を対象に交換を行う。

交換条件　支部・地区相互を原則とする。

支部・地区二名を原則とする。

人員　十月中旬約一週間

期間　潜在費は相互に負担・旅費は本部負担

経費

❼移動文化映画班の派遣

本年度の長期（一ヵ月）巡回予定地は北陸地方・近畿地方の各府県とするが、その他の地方への巡回は受入事情によって考慮する。なお、移動文化映画班派遣費は別に定める。

❽サークル活動の促進

中央にある各サークルの強化は勿論地方のサークル活動促進のため中央のサークルより指導を派遣するよう務める。

（五）各種機関及び団体の交流

本会がわが国青年運動のために強固な地歩を確きつつある現状は必然的に国際諸局及び各種団体との交流を深める結果となったが、われわれも進んで交流の機会をもち、情報や意見の交換を怠ない、国民的運動等には積極的に参加すべきである。

しかし各機関・団体の性格をよく見極めることは勿論、本会の主体性をそこなうようなことのないよう充分考慮すべきである。

❶当局の青少年関係機関への参加と積極的意見具申

❷沖縄問題（沖縄問題解決国民運動連絡会議）への参加継続

❸各種団体との定期的会合

❹各種運動への参加

事業計画

われわれは、「友愛」を具体的に実現するために過去四ヵ年各種事業をおこない一応の成果をあげて来たが、かならずしも満足するものでなく、友愛社会実現への途の険しさを痛感しているところである。

しかし、われわれは前進しなければならない。本格的な事業を遂行するのは、これからである。友愛山荘建設運動しかり、社会保障問題の取扱組織運動しかり、社会保障問題の取扱組織等、意欲的な動きをする時は年度より始まるのだ。全国的に拡大されている本会組織を充分にかし、運動目標達成のために全力を傾注しなければならないとともに、われわれは前進しなければならない。

❶地方指導者講習会

地方に対する指導者講習会を開催するため友愛の基本的理念の研究と、具体的組織活動について講習をおこなう。講習を受けた会員は地方指導員として活動する。

期日　期間を約一週間として十月に開催を予定

参加者　地方において積極的に活動している会員の中から本部において選ぶ。人数については会員の実情にかんがみて決める。

❷各種団体との情報交換

❸報道機関との連絡

一部に曲解した報道があることにかんがみ、現在迄の連絡不充分を大いに反省、今後は積極的に連絡の実情の姿を報道してもらわなければならない。

❹友愛情報の拡充

昨年度より発行している友愛情報を一層拡充し運動推進の上に適格な判断を下すための参考に与する毎月一回定期刊行の発行する。

❺研究会定期的開催

❻機関紙「友愛」の拡充と活用

「友愛」を真にわれわれの機関紙とするため会員の投稿を積極的にすゝめる編集方法をとる。

なお会員の読者（出来れば有料読者）の獲得は組織拡大の面からも努力しなければならない。

❼研究会の活用

❽既成のパンフレット・リーフレットの活用

❾会員用のテキストの発刊

❿会員の研究の積重ねの奨励

⓫支部財政に対する補助

本年度は支部並びに地区に対する援助のうち五円を補助する。なお特別の場合は別に考慮する。

⓬各種資料の有償配布

パンフレット・友愛情報等の料金はかならず納入すること。

⓭各種事業による収入の増加をはかる

（五）会員間の人的・物的交流の促進

具体的には専門委員を設け立案する。

一、社会・文化活動

（一）社会保障問題の研究

本年度は友愛山荘建設運動及び社会保障制度の本格的研究を二大支柱として社会・文化活動を推進してゆく。

慈善運動・リクリエーションも結構だが、その底には活動実社会に対する改革の情熱と批判精神をもつ人間の育成を目指すべきである。

（二）助け合い運動の実施

（三）生活改善及び産業・文化の向上運動

❶生活記録の発表を奨励

❷郷土の実態調査・郷土史の研究

❸共同作業の推進

❹地方青年の交換

昨年より広範な地方を対象に交換を行う。

交換条件　支部・地区相互を原則とする。

支部・地区二名を原則とする。

人員　十月中旬約一週間

期間　潜在費は相互に負担・旅費は本部負担

経費

❺移動文化映画班の派遣

本年度の長期（一ヵ月）巡回予定地は北陸地方・近畿地方の各府県とするが、その他の地方への巡回は受入事情によって考慮する。なお、移動文化映画班派遣費は別に定める。

❻サークル活動の促進

中央にある各サークルの強化は勿論地方のサークル活動促進のため中央のサークルより指導を派遣する。

三、政治問題への態度

昨年度政治学習強化方針を打ち出し、二、三の具体的問題について積極的に発言をしたが、われわれの意見を政治に反映させることがいかに困難であるかを痛感したのである。

しかし政治は離れのものでもなく、われわれ自身のものである。政治に対する批判と発言は年以上に行わねばならない。また国際情勢の推移が直接・間接に国内政治の上に大きく影響する現状を注視すべきであり、国際的問題を充分認識して、つねに国際情勢に対しても本会の態度を表明することに務める。

❶本会と政治の関係を明確にする

❷政治問題に関する情報・資料の蒐集と情勢分析の結果を発表する

❸各政党機関での政治問題の表明

❹機関紙その他の印刷物に積極的に政治問題を掲載する

❺講演会・座談会等に具体的政治問題を取りあげるよう務める

❻政府及び関係当局に対して具体的な意見具申

❼政党関係者との意見交換

❽国際関係者との意見交換

事業の二大支柱

友愛山荘社会保障

第三の道協同主義

独占と独裁からの解放

奥田吉郎

今日の世界は、資本主義か社会主義かの二つの道しかないとの考え方で、ではなく、現実的に考えて、どちらの道を選ぶべきかの問題である。

第二の道の探求は、資本主義の弊害を除去し、社会主義の長所を取入れ、現実的な第三の道を見出さなければならなくなってきた。

協同主義は、現実に取組み、現実の必要に迫られて、現実と対応するため生れつゝある。資本主義における独占、社会主義（共産主義）における独裁に対して、それらの制約から脱出して、真の人間の自由と、自由な人間の協力社会を築とゆくこととしている。

こうした諸問題を解決するために、第三の道の探求は、資本主義か社会主義かで長年の苦闘を繰てきたイギリスとドイツの社会主義者が考え方でもって、現実的なものとして、次第に現実の社会において世界的な発展を見せつゝある。

これは現在の資本主義や社会主義のように思想として先きに存在して、それから現実が規定されてゆくというステロ（固定）化した考え方でもなく、現実的に考えて、必要によって選ばれ、決定するという発展的な考え方をもっている。

ここで第三次大戦後更に大きな変革を示したイギリスの資本主義についてのクロスランドの説を参照してみると本質的な点において、

①支配階級の生産手段の所有が、愛動的な採取保有となり、個人財産権が経済的社会的権力の主要な基礎をなしていない。

②生産の動向、生活水準の向上。

③中産階級が複雑となり中産階級（第三階級）が増大、階級闘争の緩和。

④観念的には、所有権、私的発意、利潤動機を、善処調整することやみ、国家の義務、社会的経済的安定、協同活動の道徳が代って強調される。

以上でもわかるように、資本主義の大きな変質がうかがえるとされる。マルキシズムが、歴史的必然性と

③雇用の傾向は高水準に向っており、失業対策を考えない政党は存在し得ない。

④所有の動向、生活水準の向上。

⑤階級が複雑となり中産階級（第三階級）が増大、階級闘争の緩和。

⑥観念的には、所有権、私的発意、利潤動機を、善処調整することやみ、国家の義務、社会的経済的安定、協同活動の道徳が代って強調される。

以上でもわかるように、資本主義の大きな変質がうかがえるとされる。マルキシズムが、歴史的必然性と

労、利潤動機を、善処調整することやみ、国家の義務、社会的経済的安定、協同活動の道徳が代って強調される。

以上でもわかるように、資本主義の大きな変質がうかがえるとされる。マルキシズムが、歴史的必然性と

労、利潤動機を、善処調整することやみ、国家の義務、社会的経済的安定、協同活動の道徳が代って強調される。

以上でもわかるように、資本主義の大きな変質がうかがえるとされる。マルキシズムが、歴史的必然性と

ようとしているとしその理由の要点は

①支配階級の生産手段の所有が、愛動的な採取保有となり、個人財産権が経済的社会的権力の主要な基礎をなしていない。

②生産の動向、生活水準の向上。

③中産階級が複雑となり中産階級（第三階級）が増大、階級闘争の緩和。

④観念的には、所有権、私的発意、利潤動機を、善処調整することやみ、国家の義務、社会的経済的安定、協同活動の道徳が代って強調される。

以上でもわかるように、資本主義の大きな変質がうかがえるとされる。マルキシズムが、歴史的必然性と

イギリスの資本主義は終戦をつげ、失業対策を考えない政党は存在し得ない。

④所有の動向、生活水準の向上。

⑤中産階級が複雑となり中産階級（第三階級）が増大、階級闘争の緩和。

⑥観念的には、所有権、私的発意、利潤動機を、善処調整することやみ、国家の義務、社会的経済的安定、協同活動の道徳が代って強調される。

以上でもわかるように、資本主義の大きな変質がうかがえるとされる。マルキシズムが、歴史的必然性と

ともかく、この継承者としての社会主義をあげているとは解かなければならない。

人間の社会的存在は常に協同的であり、これは共同性と協力性を含んだものをさしている。

従って、協同主義社会の人間像は、自由をもとにした自己の人間、全体的人間、相互扶助の精神によって貫かれなければならない。資本主義がその人間の在り方として社会性を無視したために、資本主義が崩壊、広汎な資源開発、協同組合資本、経済技術提携等、現実に示されつゝある。

資本主義の行き詰り、社会主義の限界に対して、第三の道協同主義が世界の風潮となってきた。

協同主義の担い手は、会社・工場・農漁山村等における実力者としての、知識層としての中間層で

ある。協同主義の経済は、新たな社会的合理性をもとめ、利潤主体の経済から人間主体の経済を実現しようとし、自由のための統合と計画を強調してゆく。

如何にして、自由の過剰、統制の過剰の弱点性を排して統合してゆくかが協同主義に課せられている。

また、国内ばかりでなく世界平和への進展と相まって、国際間の協力体制が必要であり、世界経済への一路としての諸国間の共同市場、経済技術提携等、現実に示されつゝある

保守的な政府の態度

革新との対立像えがく

前号でふれた二日本国憲法二の草案起草にまつわる秘話は、第一章の中心課題であるので後に詳述したい思うが、前号では同草案起草前後の民間与論の間に焦点を向けてみたい。新憲法は、少くとも形の上では「国民」が制定したものであるからである。従ってその憲法がいかに、新憲法は国民がその自由意志にもとづいて発案し、審議し、決定したものでなければならない。果して事実はどうであったのか。今ここで、戦争放棄規定の誕生を論ずるについて、改めて憲法制定当時の国民与論の動向に注目してみなければならないゆえんである。しかしながら「戦争放棄の諸問題」叙述について筆者に与えられた紙面は少く、しかもその制約たるや長くけわしい。そこで、国民与論の動向についても、(一)議会における論調(二)与論の中心としての天皇制(三)各政客派の改正草案の三項目について概略をとり簡単に説明しうにすぎない。筆者の筆の及ばざるところは、会員諸兄の学習会で補って頂きたい。御了承をこう点である（北川記）

二、議会における憲法改正論議

第八九議会における憲法改正論議

第八九臨時議会は昭和二十年十一月二十六日召集された。この議会は幣原、マ元帥初会見の席上、マ元帥より示唆を受けた憲法の自由主義化を含む五大改革の遂成を期するため開かれたものである。すなわち、わが伝統的社会秩序の民主主義化のため特に緊急とされたところの衆議院議員選挙法農地調整法の改正及び労働組合法の制定（前号参照）を課題としていわゆる民主主義革命への道をひらくという歴史的な議会をもつものであった。そして必然に展開されたところの憲法改正論議は導き民主制の答辞論戦で頂点に達した。政府側の見解は、十二月八日衆議院予算委員会において中谷武雄氏の質問に対してなされた松本国務大臣の答弁――いわゆる「憲法改正の四原則」前号記述――にみられるように消極的なものであり当時学会の支配的な意見であったところの憲法改正はなるべく避けて、解釈並びに運用の方法によって憲法の自由主義化、民主主義化を計ろうという観念に立ったものであった。そしてその立場は、美濃部達吉博士（朝日・二〇・一〇・二一―三）高沢、俊義教授（毎日・二〇・一〇・二）らの憲法学者の支持を背景とするものであったといいえよう。これは、当時すでに発足していた内閣の憲法問題調査委員会が「改正点の調査を目的とするにすぎない」という消極的態度をとっていたのと軌を一にするものでもあった。この政府の保守的見解に対立するものとして国民投票制、労働義務の撤廃、天皇大権の改正などについての要求や見解が、中谷氏、石黒忠篤氏、水谷長三郎氏などの各議員から出べられた。そしてこれらの要求及び、一方の与論の背景とするものであり、他国近代諸国憲法がその基本的性格として、議会に対する憲法改正論争も「応保守対革新」という対立像を描いていたが、「かい初期のその論調は概して低調であった。つまり敗戦日本の行うべき大変革への心の用意がさほど明確には意識されていなかった。このことは、当時の日本国民が憲法改正に対して非常に消極的であり、更には極めて無関心であったということにも原因しよう。

三、民間における憲法改正の論議

与論別戦の契機――いうまでもなく当時の我が国は、敗戦の傷深く当時の我が国は、敗戦の傷深く

さ中であり、国土は戦禍による荒廃に在せ、民心極めて高揚的であって、国民は自由も希望もなき焦合の業にひたすら、食と住を求めるのが実情であった。従って、連合国の対日管理や政府の施策に注目するようとまはなく、況んや憲法改正についてとかく無関心にならざるをえなかったのである。かような国民与論の激変を強烈に促進したのは、他ならぬ天皇制をめぐっての激しい論議であった。法律的には勿論のこと天皇制への挑戦はなお国民の心を刺激するのに充分な意味を持っていたのである。天皇制に対して果敢な挑戦を開始したのは、かの十月四日の「自由の指令」によって始めて合法政党となった共産党であった。共産党はその行動綱領の冒頭に「天皇制の打倒、人民共和政府の確立」を掲げ、天皇を戦争犯罪の元凶として責任を追及したのである。議論外から起った この新しい政治勢力の攻勢は、自由党、進歩党、協同党、社会党などの見解と真向から対立するものであって、かくて天皇制存廃問題を中心に憲法改正問題に関する世論は、よりやくその緊張の度を加えるに至ったのである。

天皇制で与論湧く

共産党、戦争責任を追求

しかしながら、天皇制をめぐる国内論争は所詮、占領治下の"盲目的""手さぐり的"論議であって結局は連合軍司令部の態度によって左右される問題であった。天皇制をめぐる国際与論として、トルーマン米大統領の「天皇制決定の国民投票論」（二〇・一八）ヒリッピンの戦犯指名要求（二一・二一）などがあったが、⑪皇室財産の課税（二一・二〇）②国家神道の禁止（二一・二五）③軍閥の解体と戦犯の逮捕など一連の措置によって天皇制の支柱を全く除き去った司令部は、昭和二一年の元旦、天皇による神格を否定するに至った。前号までに述べた「政府の憲法改正調査」は、まさにかかる与論の推移の背景のもとに進められつつあったのである。

にぎやかな民間草案

戦争放棄見当らず

各党各派の憲法改正案発表……政府の改正調査の進捗とともに、各種の民間私案が相ついで発表された。すなわち、所謂「松本草案」がまとめられつつあった二〇年一二月一六日に憲法研究会（高野岩三郎、馬場恒吾、杉森孝次郎、森戸辰男、岩淵辰雄、室伏高信、鈴木安蔵）が当時としては多く劃期的な国民主権主義的な草案要綱を発表して朝野の耳目を驚動せしめたのをはじめ、自由、改進、共産の各党や、個人から実に十数案の改正案が提案発表されて「新聞紙を飾った。その各々について説明論評することはできないが、以下に主なものを掲げてみよう。（カッコ内は発信）

①日本自由党（鳩山一郎）二一・一・二「憲法改正要綱」発表。天皇の大権事項、国民の権利、議会、国務大臣及内閣、枢密顧問、裁判所及会計検査院、改正の八項目よりなり天皇統治主義に立つ。

②日本進歩党（町田忠治後に幣原喜重郎）二一・一・二三「憲法改正案要綱」発表。万針並びに要綱（七項目二五ヵ条）よりなり天皇統治主義に立つ。

③日本社会党（片山哲）二一・二・二三「新憲法要綱」発表。新憲法制定の三基準（方針・方法・目標）及び主権と統治権以下八項目よりなり「民主化された天皇制」を容認し、統治権は議会と天皇に分割している。

④日本共産党（徳田球一）二〇・一二・二〇「新憲法の骨子」発表。主権は人民にある。議会は主権を簒奪する、など七項目。

⑤大日本弁護士連合会　二一・一・二一「憲法改正案」発表。

⑥帝国弁護士会（長谷川太一郎）二一・四日本国憲法改正草案」発表。

⑦憲法懇談会（尾崎行雄・鈴辺義治郎・福田氏・梅野晋吉・石田秀人）二一・三・五「日本国憲法草案」発表。君民間治主義に立脚し、前文、特色一四項目・九章九〇条よりなる。

⑧憲法研究会（前芝）根本原則、国民の権利義務、議会、内閣、司法、財政、補則等よりなり国民主権を明記し、最初の民間側の草案として世人の注目をひいた。この草案は又補則に「この憲法公布後遅くも十年以内に国民投票による新憲法を制定すべし」と掲げ、占領下の憲法は時限法なる性格をもつことを明らかにしている点が注目に価するであろう。

戦争放棄の諸問題（3）

話題の横顔（3）

熊谷 典治（長野）
支部連合会（長野県東信支連）をいち早く結成する等なかなか活動家である。現在選挙関係の仕事をやっているが、民謡の大家で到る所に友達になると心強い。

大森 茂夫（岐阜）
大学時代応援団長をしていたけあって誠に剛直な男である。しかし根は純情なのでとっつきにくい声を聞かせているとは有名である。現在所は長野県北佐久郡本牧町月

阪野 寅吉（大阪）
月小唄保存会会長として各地で良い現在岐阜県大垣市に住んでいるが近いうちに岐阜市に出るといっている。

大西 厳治（東京）
若いながら株式会社東京原の取締役として企画を担当し大いに活躍しているが、会員としても今後が期待される人である。現在所は大阪府堺市大字生立一八五ノ一

河村 友夫（東京）
職は歯科医師で、学部卒業後引続き大学院研究科に進み業務の博士として大いに期待されていたが、昨年父親がなくなられ、家業の土建業をつぐ結果となり、なれないながらも頑張っている。現在所は東京都墨田区隅田町二ノ三八九

柳沢 定勝（東京）
"国の孫六"で有名な岐阜県関市の出身、家業の刃物関係の仕事をやっているかたわら、政治経済研究所（大内兵衛所長）につとめ、中日弁論研究会 理事長（中日新聞）をやっているなかなかの振った方。東京・銀座七ノ目同和火災ビル二階に昨年秋歯科医を開業共帰で診療にあたっている。なお現在台東区中根原四に住み銀座の診療所によっている。

佐々木茂郎（東京）
そがしい男である。現在所は豊島区高田本町二ノ一五〇八

折戸 博司（中大）
父親の職業（郵政関係）の関係上少年時代はよく転居したが、大学入学当時より東京に落着いている大学を優等で卒業しただけあってなかなか人間もしっかりしている現在、会社の経理課にいるのもそれが見込まれたのであろう。現在所は東京都世田ヶ谷区三軒茶屋四二

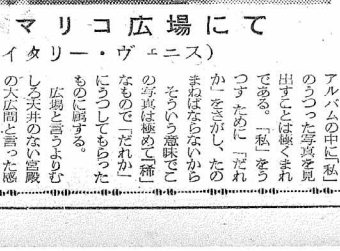
上田 正吉（福岡）
五尺八寸二十貫を超す堂々たる体躯から、押し出す精熱と行動力は福岡県前市八屋町明神前

清川正一郎（東大）
として活躍し、なかなか困難な機関紙（世界）まで発行している体の割の原稿は純情なる一面を現はしていると見るべか、現住所は福岡県前市八屋町明神前

訪欧中のアルバムから

ハリウッドの女優、キャサリン・ヘップバーンが、婚期おくれの三十娘を見事に演じた映画「旅情」は、このイタリヤのヴェニスを舞台に、えがかれたメロドラマである。ミラノから高い建物の間から、ドームがみえ、列車で朝早くこの水の都と呼ばれるこの美しい街に着いた。私は、人通りの少い通りを逍遥をたどりながらに歩いた。めざすは「サン・マルコ広場」であったしかしヴェニスの道は、せまく複雑でわかりにくかった。どの道も、もの五十万もの行かないうちに袋小路にでていたり、運河に出たり、また袋小路にぶつかってしまったりしたのである。それでも、私は「旅情」の中で「朝鮮」のヘップバーンが朝鮮の街にさまよいながらも、やっとの思いで、私は、「私」のうつっているこの写真を掲げることはかからぬ「ためらい」と「てれくさい」ようなおもいにかられている。しかし、ひとりだけのヨーロッパの旅で、そのアルバムの中に「私」のうつった写真を見出すことは嬉くまれである。「私」をうつすために「だれか」をさがし、たのまねばならないかとの写真は極めて稀になもので「だれか」にうつしてもらったものに属する。

広場と言うよりもしろ天井のない宮殿の大広間と言った感じのサンマルコ広場は何時行っても若いアベックばかりのようにおもわれた。時は九月の末、場所は広場の一隅にあるキャフェ、この写真を見て、筆者の顔が幾分ウエットに見えるところから、条件がそろいすぎている」と、わざわざ私の家内の前で言った友人がいる。



サンマリコ広場にて
（イタリー・ヴェニス）

深津栄一

右の諸団体の外に個人的な私案が発表されている。

①岡野岩三郎「憲法改正案要綱」
②清瀬一郎「憲法改正条項私見」
③里見岸雄「大日本帝国憲法改正案私案」
④福田正次「憲法改正私案」
⑤布施辰治「憲法改正私案」

なども主なものとしてあげることができる。

以上の改正諸試案は、相次ぐ占領軍の改革の風の中で発表されたもので、これらを検討することによって一応当時の指導階級や有識層の考え方を知ることはできようしかし何よりも国民の与論が明確に示されたとみられるのは二年四月二〇日に施行られた第二回総選挙（二新選挙法による第一回総選挙）において天皇制廃絶護持を主張していた自由党（鳩山総裁）が一四〇名を獲得して第一党を占めたことであろう。これは当時の国民全体の中に保守的色彩が厚い層を持っていたことを示している。

ただここで注目すべきは、以上に掲げたこの改正試案にも「戦争放棄」乃至「無軍備・非武装、無抵抗」あるいは「戦力放棄」「交戦権の否定」は殆んど見出し得ないということである。すなわち、少くとも以上の改正案の表面だけをみれば、有史以来の敗戦を経験して、戦禍の悲惨さを身にしみて痛感したはずの、日本国民の如何なる階層にも戦争放棄ないし戦力の不保持を国の憲法に明記しようという考え方は持たれなかったということを示している。このことが悲しむべきことかどうかの批判は別として認めざるを得ない疑いのない事実であったといえよう。

かような改正諸試案が新聞紙を飾っていたところへ、二月中旬以来急に新聞その他から全く姿を消していた政府草案が、突如として三月六日に発表されたのであった。しかもそれは如何なる他の改正案よりも進歩的なものであった。しかもそれは如何なる他の改正案よりも進歩的なものであったのである。

四国地方友愛普及

青年の結集に成功
各地全国大会に初参加

全国組織の達成を目指しての、初の四国普及は、奥田組織部長・一八瀬弘君の同名によって、三月二十日より四月八日まで続行され、幾多の成果を挙げて帰京した。これにより、四国四県に全組織が出来、ようやく完全な全国的組織となり会の歴史の上に輝く一頁をかざった。以下は編者記である。

高松市・大川村

初の四国普及のため、期待感と責任の重大性に緊張、静かな瀬戸内海を瀬戸丸にて渡る。

高松桟橋で盛んに手をふって出迎える人がある、友愛のマークを胸にした岡山県児島支部長の工藤昭道君であって感激のうちにその後の情勢を交換し、ともに宿泊に入った。

屋岡は、高松市において、藤本氏、赤松氏の御骨折でで、四国新聞社を始め関係諸団体を回り、丁度彼岸の中日にあたっていたので、三木武吉老の墓に詣でた。

駅前・目抜き通りにて会紙を配布夜は、香川県下で最も青年団活動の活発といわれている大川郡大川村富田公民館で会合を持ち、奥田組織部長より友愛意思と会結成の申来、一ノ瀬君より会組織と活動について、土井支部長より支部活動と大会の感想が語られ、友愛を盛り上げようとする情熱の力が、幾多の園舞を払いのけて吹っ飛んで集っている人々を感動させたかって大里の山路を高松に帰り、四国普及の初の一夜を結んだ。

徳島市

高松市・赤松悦夫君・大川村十川昭五君が中心となって会との連絡にあたることになった。

（三月二十一日）

国友県議より県下の実情を伺い、早速、県庁社会教育課を訪問し、一ノ木県議長、山崎主事補と懇談、徳島市長、徳島新聞、県青連、市青連の団長から青年団の実情を聴き、青年運動を持続することの非常な勉強になった。

夜は宿で座談会を行い、市青連の団長を通じて青年団諸君に会の紹介を依頼した。

翌朝、駅前で会紙の配布にあたった。

（三月二十二日）

小松島市

旧坂野町坂野支部で会合、参会者二十五名で質問が続出、特に精神面のみならず社会制度の中に如何に友愛をおりこんでゆくか、農業の従事者に対して、会が如何なる面で役立つかの具体的な提示をしてほしい、等真面目な問題が多かった。

もっとも、全員入会することになり近く結成準備委員会を開いて、全国大会までに支部結成をし、代表者を大会に送ることになった。

竟争者に宏田勝君が選ばれ、後援会の承を反復組織をした。

今後とも力強い動きが期待される。

堀江町

（三月二十二日）

徳島県で最も青年活動の盛んといはれる板野郡で会合を持つ予定だったが、郵便ストのあふりを喰って連絡が行くれ、都合上徳島市農業会館で座談会を行った。

堀江町矢野茂文君のあっせんで、坂野郡、鳴門郡、徳島市の青年有志が参集、友愛の話の他に青年と政治、青年団活動について活発に意見の交換をした。

友愛については、しばらくの間新聞その他を通じ、研究期間をもうけて対処したいとの意向であった。

石井町

（三月二十四日）

四国地方で唯一の会員の居在地。

＝今治市の懇談会＝

今治市

神垣博人君（県支部）写す

香長村

（三月二十五日）

いよいよ広入り、雄新の士を多数、張出したこの国は最近は青年活動が著しく低調の国、農村は米所といわれ、年一回来がとれる豊かな村だった。

小生のところは、農村青年が比較的多いところなので、農村に結びついた青年生活の中に友愛を見出してゆかなければ会の発展はありえない様な感じがします。例えば農事プラン、座談会、旅行、図書交換、レクリエーションを行って散会、中村憲宅にとめていたいた。石井町区はこゝを基点としてかなりの範囲に普及しているのが注目された。

佐川町

（三月二十七日）

こゝは雄新の田中光顕伯、最近の牧野宗郎氏を出した由緒の深い町、青山文庫には雄新当時の志士の直筆がはとんどあり、時代の変望者ばかりで、和気あいあい、楽しい交歓会の中で会の内容を詳細に説明、友愛の歌やリクリエーションを行って散会、中村憲宅にとめていたいた。石井町区はこゝを基点としてかなりの範囲に普及しているのが注目された。

高知市

（三月二十八日）

高知は岩田一政氏の紹介届いた紹介により連絡がスムーズにとれた。はりまや橋を中心にした会紙の配布は熱心な質問者があって、その効果は意外に大きなものがあるよう。高知新聞、ラジオ高知など時期的な問題や建設の大きさ、建設費の問題等いろいろ具体的問題を打ち合せなければならないので近日中に同志が上京、本部と話し合うことになっている。

宇和島市

朝の四時に起床、鉄道のない山道を五時間かかって土佐から伊予に越した。

ここは本公会の村伸氏が手順よく会を準備され、大都で有名になった「耕して天に届く」の殿々畑宇和島城など名所の見学、金剛山往職・宮本会長（本公会）などを訪問、時間を有効に使用した。

松山市

福本孝君が伊予から乗りこみ、久間を暖めつつ、今後の対策を練る。

青年団から多数参加、県庁、青年団から多数参加、市都市の組織のむつかしさをいかにするかが課題となった。

伊予市、松山市が連絡を密にして、高市共支部結成、大会参加を決定した。後、新聞社、県庁、青年団の他関係団体を訪問、会議の配布にあたった。

今治市

県支部の小田嶽滑幹事をはじめ同地の同志数名がわざわざ広場からおもむき、会流したことは誠に心強く会せて田坂敏三郎市長の努力で、座談会は三年、三年一年、三十二年の青年団役員が集り盛況、政治性の問題と賃金についての質問があり後、地元ゴーラス団の合唱をきき友愛の歌を紹介、会員で楽しい会場を作って会を閉じた。

ここは小島会場滑幹の歓迎、会合の青年の中にも知人があり、同会の姉上に宿舎の世話になった。ことは大きな発展が望めそう（四月三日）

高瀬町

四日牧民の世話により会合ここの座談会は議論白熱して意義があった、健青会の会員が多く、いかにも先がも問題もあると思いますが、本会の目的がもまり遠大なため会の趣旨に全面的賛成でない意思表示を仲々はっきりしない人も相当おります。そこでこの際何等さしておいても形あるものを即ちわれわれの山荘建設することが、優先ではないでしょうか。

山荘建設についての具体的運動方法、特に地方における運動方法、特に地方における運動方法を会員に周知させることと本部の焦点の問題であることをこゝに建言いたします。

中島輝男（長崎・長崎支部）

八幡浜市

海と山の町、野本市長の紹介で、市青連をもとに会合することになり、集りが少いため会の趣旨を説明、渡辺伯一氏が中心となって会の普及にあたることになった。

（四月一日）

丸亀市

宮下県議の紹介で市の公民館で会合、青年の情熱と行動を友愛に生かしてゆこうと、静かなうちにも建設的に話が進められ、支部の結成、大会に参加、如何にして支部活動を持続するかの意見が出た。

以上

香川県

（三月二十一日）

高松桟橋で盛んに手をふって出迎える人がある、友愛のマークを胸にした岡山県児島支部長の工藤昭道君であって感激のうちにその後の情勢を交換し、ともに宿泊に入った。

屋岡は、高松市において、藤本氏、赤松氏の御骨折でで、四国新聞社を始め関係諸団体を回り、丁度彼岸の中日にあたっていたので、三木武吉老の墓に詣でた。

駅前・目抜き通りにて会紙を配布夜は、香川県下で最も青年団活動の活発といわれている大川郡大川村富田公民館で会合を持ち、奥田組織部長より友愛意思と会結成の申来、一ノ瀬君より会組織と活動について、土井支部長より支部活動と大会の感想が語られ、友愛を盛り上げようとする情熱の力が、幾多の園舞を払いのけて吹っ飛んで集っている人々を感動させたかって大里の山路を高松に帰り、四国普及の初の一夜を結んだ。

徳島市

（三月二十一日）

国友県議より県下の実情を伺い、早速、県庁社会教育課を訪問し、一ノ木県議長、山崎主事補と懇談、徳島市長、徳島新聞、県青連、市青連の団長から青年団の実情を聴き、青年運動を持続することの非常な勉強になった。

夜は宿で座談会を行い、市青連の団長を通じて青年団諸君に会の紹介を依頼した。

翌朝、駅前で会紙の配布にあたった。

（三月二十二日）

小松島市

旧坂野町坂野支部で会合、参会者二十五名で質問が続出、特に精神面のみならず社会制度の中に如何に友愛をおりこんでゆくか、農業の従事者に対して、会が如何なる面で役立つかの具体的な提示をしてほしい、等真面目な問題が多かった。

堀江町

（三月二十二日）

徳島県で最も青年活動の盛んといはれる板野郡で会合を持つ予定だったが、郵便ストのあふりを喰って連絡が行くれ、都合上徳島市農業会館で座談会を行った。

堀江町矢野茂文君のあっせんで、坂野郡、鳴門郡、徳島市の青年有志が参集、友愛の話の他に青年と政治、青年団活動について活発に意見の交換をした。

友愛については、しばらくの間新聞その他を通じ、研究期間をもうけて対処したいとの意向であった。

石井町

（三月二十四日）

四国地方で唯一の会員の居在地。

＝今治市の懇談会＝

今治市

神垣博人君（県支部）写す

香長村

（三月二十五日）

いよいよ広入り、雄新の士を多数、張出したこの国は最近は青年活動が著しく低調の国、農村は米所といわれ、年一回来がとれる豊かな村だった。

小生のところは、農村青年が比較的多いところなので、農村に結びついた青年生活の中に友愛を見出してゆかなければ会の発展はありえない様な感じがします。例えば農事プラン、座談会、旅行、図書交換、レクリエーションを行って散会、中村憲宅にとめていたいた。石井町区はこゝを基点としてかなりの範囲に普及しているのが注目された。

佐川町

（三月二十七日）

こゝは雄新の田中光顕伯、最近の牧野宗郎氏を出した由緒の深い町、青山文庫には雄新当時の志士の直筆がはとんどあり、時代の変望者ばかりで、和気あいあい、楽しい交歓会の中で会の内容を詳細に説明、友愛の歌やリクリエーションを行って散会、中村憲宅にとめていたいた。石井町区はこゝを基点としてかなりの範囲に普及しているのが注目された。

高知市

（三月二十八日）

高知は岩田一政氏の紹介届いた紹介により連絡がスムーズにとれた。はりまや橋を中心にした会紙の配布は熱心な質問者があって、その効果は意外に大きなものがあるよう。高知新聞、ラジオ高知など時期的な問題や建設の大きさ、建設費の問題等いろいろ具体的問題を打ち合せなければならないので近日中に同志が上京、本部と話し合うことになっている。

宇和島市

朝の四時に起床、鉄道のない山道を五時間かかって土佐から伊予に越した。

ここは本公会の村伸氏が手順よく会を準備され、大都で有名になった「耕して天に届く」の殿々畑宇和島城など名所の見学、金剛山往職・宮本会長（本公会）などを訪問、時間を有効に使用した。

松山市

福本孝君が伊予から乗りこみ、久間を暖めつつ、今後の対策を練る。

青年団から多数参加、県庁、青年団から多数参加、市都市の組織のむつかしさをいかにするかが課題となった。

伊予市、松山市が連絡を密にして、高市共支部結成、大会参加を決定した。後、新聞社、県庁、青年団の他関係団体を訪問、会議の配布にあたった。

今治市

県支部の小田嶽滑幹事をはじめ同地の同志数名がわざわざ広場からおもむき、会流したことは誠に心強く会せて田坂敏三郎市長の努力で、座談会は三年、三十一年、三十二年の青年団役員が集り盛況、政治性の問題と賃金についての質問があり後、地元ゴーラス団の合唱をきき友愛の歌を紹介、会員で楽しい会場を作って会を閉じた。

ここは小島会場滑幹の歓迎、会合の青年の中にも知人があり、同会の姉上に宿舎の世話になった。ことは大きな発展が望めそう（四月三日）

高瀬町

四日牧民の世話により会合ここの座談会は議論白熱して意義があった、健青会の会員が多く、いかにも先がも問題もあると思いますが、本会の目的がもまり遠大なため会の趣旨に全面的賛成でない意思表示を仲々はっきりしない人も相当おります。そこでこの際何等さしておいても形あるものを即ちわれわれの山荘建設することが、優先ではないでしょうか。

山荘建設についての具体的運動方法、特に地方における運動方法、特に地方における運動方法を会員に周知させることと本部の焦点の問題であることをこゝに建言いたします。

中島輝男（長崎・長崎支部）

八幡浜市

（四月一日）

丸亀市

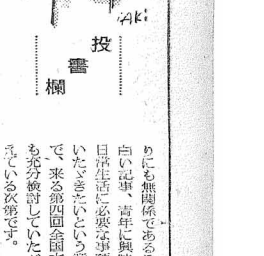
（四月五日）

宮下県議の紹介で市の公民館で会合、青年の情熱と行動を友愛に生かしてゆこうと、静かなうちにも建設的に話が進められ、支部の結成、大会に参加、如何にして支部活動を持続するかの意見が出た。

以上

ことば

日常生活に直結した記事を



投書欄

小生のところは、農村青年が比較的多いところなので、農村に結びついた青年生活の中に友愛を見出してゆかなければ会の発展はありえない様な感じがします。例えば農事プラン、座談会、旅行、図書交換、レクリエーションを行って散会、中村憲宅にとめていたいた。石井町区はこゝを基点としてかなりの範囲に普及しているのが注目された。

香長公民館は盛況で、周遊問題、農村問題と討論形式のうえに次から次と意見が開陳され、この様子からは青年活動が低調とは思われなかった。

山本憲氏を世話役として支部結成大会参加を決めた（三月二十七日）

佐川町

こゝは雄新の田中光顕伯、最近の牧野宗郎氏を出した由緒の深い町、青山文庫には雄新当時の志士の直筆がはとんどあり、時代の変望者ばかりで、和気あいあい、楽しい交歓会の中で会の内容を詳細に説明、友愛の歌やリクリエーションを行って散会、中村憲宅にとめていたいた。石井町区はこゝを基点としてかなりの範囲に普及しているのが注目された。

高知市

（三月二十八日）

高知は岩田一政氏の紹介届いた紹介により連絡がスムーズにとれた。はりまや橋を中心にした会紙の配布は熱心な質問者があって、その効果は意外に大きなものがあるよう。高知新聞、ラジオ高知など

宇和島市

（三月二十日）

朝の四時に起床、鉄道のない山道を五時間かかって土佐から伊予に越した。

ここは本公会の村伸氏が手順よく会を準備され、大都で有名になった「耕して天に届く」の殿々畑宇和島城など名所の見学、金剛山往職・宮本会長（本公会）などを訪問、時間を有効に使用した。

松山市

福本孝君が伊予から乗りこみ、久間を暖めつつ、今後の対策を練る。

青年団から多数参加、県庁、青年団から多数参加、市都市の組織のむつかしさをいかにするかが課題となった。

伊予市、松山市が連絡を密にして、高市共支部結成、大会参加を決定した。後、新聞社、県庁、青年団の他関係団体を訪問、会議の配布にあたった。

今治市

県支部の小田嶽滑幹事をはじめ同地の同志数名がわざわざ広場からおもむき、会流したことは誠に心強く会せて田坂敏三郎市長の努力で、座談会は三年、三十一年、三十二年の青年団役員が集り盛況、政治性の問題と賃金についての質問があり後、地元ゴーラス団の合唱をきき友愛の歌を紹介、会員で楽しい会場を作って会を閉じた。

ここは小島会場滑幹の歓迎、会合の青年の中にも知人があり、同会の姉上に宿舎の世話になった。ことは大きな発展が望めそう（四月三日）

高瀬町

四日牧民の世話により会合ここの座談会は議論白熱して意義があった、健青会の会員が多く、いかにも先がも問題もあると思いますが、本会の目的がもまり遠大なため会の趣旨に全面的賛成でない意思表示を仲々はっきりしない人も相当おります。そこでこの際何等さしておいても形あるものを即ちわれわれの山荘建設することが、優先ではないでしょうか。

山荘建設についての具体的運動方法、特に地方における運動方法、特に地方における運動方法を会員に周知させることと本部の焦点の問題であることをこゝに建言いたします。

中島輝男（長崎・長崎支部）

友愛青年同志会会則（抄）

第一章　総　則

第一条　本会は友愛青年同志会と称する。

第二条　本会は本部を東京都に置く。本会必要に応じ、地域別または学校別に支部を設けることができる。支部に関する細則は別に定める。

第二章　目的及び事業

第三条　本会は友愛精神を基調として青年の団結を図り、政治・経済・社会および文化の全面に亘って公正なる識見を博めるとともに、青年の学識および社会活動を通じて共助共存の実を挙げ健全明朗なる民主社会の実現と自主独立の文化国家の建設に挺身することを目的とする。

第四条　本会は前条の目的達成のための事業を行う。

友愛精神および民主思想の磨揚思想防衛と自衛体制並びに生産増強および国土開発等百途とする愛国運動の展開

社会福祉と厚生文化の基本とする愛国運動の展開

青年の学究および社会活動に対する援護協力

国際親善に資する青年運動、講演会、公聴会、討論会、座談会、その他各種催物の開催

機関紙および各種刊行物の編集刊行その他本会の目的達成のために必要なる事業

第三章　会　員

第五条　本会の趣旨に賛同し会則を守る男女青年をもって会員とする。新しい入会者は定められた入会申込書に所定の事項を記入の上入会及び会費をそえて居住地の支部に申込むものとする。

第四章　役員及び機関

第一節　役　員

第六条　本会の役員は、会長一名、常任幹事（総理一名を含む）及び幹事若干名、事務局長一名、監査二名、統制委員若干名とし大会において選出する。

第二節　機関及び機構

第十三条　本会に大会、常任幹事会、幹事会を置く。

第十四条　同一都道府県内に二個以上の支部がある時は、支部連合会を組織する。

第五章　組　織

第一節　支　部

第十二条　組織の基本を支部とし、同一市区町村及び学校を単位として、会員三十名以上をもって構成する。これにみたない場合は隣接又は地区と統合する。

第二節　支部連合会

第十四条　同一都道府県内に二個以上の支部がある時は、支部連合会を組織する。

第六章　会　計

第十六条　会費は会員一名年額一百円とし一期（四月・九月）にわけ支部より本部に納入する。支部費は支部が定める。

既成施設の活用（長垂山荘・福岡市）

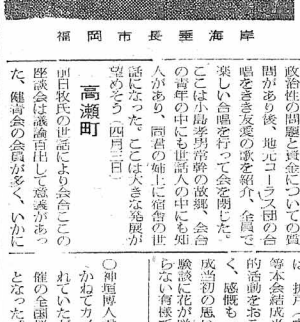
友愛山荘

神垣博人君（県支部）写す

友愛山荘建設運動の波紋はその後も全国的に拡がり、建設とともに既成の施設開放の話が出ている。四国地方普及の本部員も、地元の人からこの点を打診され、充分考慮することを約束している。また福岡支部の真武信幸君は、つねづね青少年簡易宿泊施設の建設を考えており、一昨年ようより阿蘇山に宿所を兼ねた科学博物館建設にも協力完成させ、本人も福岡市今宿町長垂に「眺海園」をたて一般青少年に開放して、今回の友愛山荘建設計画には非常な関心を寄せている。特に現在「眺海園」の近くに長垂山荘と友愛山荘との結びつきを考え、出来れば友愛山荘として建設したい意向をもっている。

岡山荘はすでに設計も終り、建坪六十六坪のベット式、歴史の本格的山荘で、建設費も約一百二十万円かかるが完成で友愛山荘より一周り大きなものになる。

なお友愛山荘建設運動は五月全国大会を期して展開される関係上、



福岡市長垂海岸